

福島県

中学教育

発行所
福島県中学校教育研究会
責任者 高橋 賢司
印刷所
(株) 第一印刷
福島市岡島字古屋館1番2
TEL 024-536-3232

- 会長あいさつ……………会長 高橋 賢司 ……(1)
- 総会祝辞……………福島県教育委員会教育長 鈴木 淳一 ……(2)
- 総会に臨んで……………副会長 吉成 主宏 ……(2)
- 平成29年度本会予算……………各部会参加者代表 ……(3)
- 主題研修会に参加して……………各部会参加者代表 ……(4)
- 平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会の開催……………(7)～(8)
- 会津大会をひかえて……………実行委員長 一ノ瀬 直市 ……(7)
- 平成28年度中学校教職員研究作品の審査結果……………(8)
- 平成28年度中学校教職員研究作品優良作品一覧……………(9)
- 平成29年度福島県中学校教育研究会役員一覧……………事務局 ……(10)

あ い さ つ

福島県中学校教育研究会会長 高橋 賢司



5月9日に開催されました「平成29年度第54回福島県中学校教育研究会総会」において、会長に選出されました福島市立渡利中学校の高橋賢司と申します。副会長の皆様、各支部長、各専門部長、事務局員の方々のご協力をいただきこれまでの成果と課題を踏まえて本会の運営に全力で努めて参りたいと考えておりますので、会員

の皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

東日本大震災に伴う原子力発電所の事故後、相双地区の中教研としての活動ができない状況にありましたが、一昨年度から相馬支部では、従前通りの活動を再開することができ、双葉支部でも避難先などの支部において活動を行うことができるようになっていきます。次年度からは双葉支部としての活動についても検討していくというお話を伺っております。中教研の活動を通して研究実践に取り組んでいこうという会員の皆さんの熱い思いに、心より感謝申し上げます。

今年度は、基本主題「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」の3年次の取組になります。昨年度までの研究の成果と課題を踏まえ、研究の方向性を明確にして研究実践の推進をお願いいたします。

10月11日には県研究協議会会津大会が開催され、各

学校及び各支部の研究成果を持ち寄り、共有化を図ります。去る5月15日には、会津大会の第1回実行委員会が開かれ、準備が本格化してきたところです。その中で、少ない会員数で運営しなければならない課題を克服しようという、会津地区の皆さんの意気込みを感じました。会津大会は昨年度の県北大に引き続き、生徒休業日として、会津地区の会員の一日研修日として実施します。一般参加者にとっても意義ある大会とするために、各部会においては、一般参加者も交えた協議ができるような運営方法の工夫をお願いします。そして、各支部においては、研究協議会の運営等について工夫し、各専門部の研究活動を充実させることで、会津大会が活発な実践発表の場となることを願っています。

また、平成30年度以降の基本主題は昨年度の委員・理事合同会において、「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」に決定しました。今年度はこの基本主題のもと、各学校の意見をもとに、支部や県の専門部で意見を調整し、各専門部の主題と副主題を決定しますので、ご協力をお願いします。

最後になりましたが、県教育委員会並びに各市町村教育委員会をはじめ関係機関の方々には、本年度も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、これまで本会活動に多大なご尽力を賜りました亀岡前会長様をはじめとする退会されました皆様方に衷心より感謝を申し上げあいさつといたします。

福島県中学校教育研究会総会 福島県教育委員会教育長祝辞

福島県教育委員会教育長 鈴木 淳 一



福島県中学校教育研究会総会が開催されるに当たり、お祝いの言葉を申し上げます。

本会におかれましては、昭和39年の発足以来、時代とともに変化していく課題を的確にとらえ、その解決に向けた着実な取組を重ねるとともに、生徒の学力の向上や心の教育の充実に多大な貢献をされていることに対し、心から感謝申し上げます。

次期学習指導要領が3月31日に告示され、知識の理解の質を高め資質・能力を育む「主体的・対話的で深い学び」を推進することや、各学校において学習の効果を最大化するためのカリキュラムマネジメントの確立などが求められております。

県教育委員会が今後の教育政策の骨太の方針を示すためにこの3月に策定した「頑張る学校応援プラン」においては、本県教育をめぐる学力等の現状について、データによる分析を行い、本県の強みや課題を「見える化」した上で、5つの主要政策を掲げました。

本プランの主要施策1「学力向上に責任を果たす」における最も重要な取組のひとつである「学びのスタンダード」推進事業では、教員が身に付けるべき授業のポイント等を示した「授業スタンダード」を作成し、すでに全ての小中学校に配布したところであります。授業の質的向上を目指して、貴研究会の研修の中でも大いに活用していただきたいと考えております。

また、県教育庁内に「学力向上支援チーム」を新たに設け、特に算数・数学の活用力を高めるための指導・助言体制を強化いたしました。このような施策の効果が現れるには教師自身が、アクティブ・ラーナーとして学び続けるための研修の機会が欠かせません。その点からも貴研究会の持つ役割に大きな期待をしているところであります。

今年度も、平成27年度から3か年の基本主題である「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」のもと、ふくしまの未来を創造するための「知識・技能」や「創造的な思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることや、社会と共生し社会に貢献するための「豊かな人間性」などを育成するための指導法の研究に取り組まれると伺っております。

震災後の厳しい教育環境の中にあっても「生徒にとって、最も身近で、最も重要な教育環境は教師であり、授業である。」という本会の設立の原点をふまえ、ふくしまで学ぶ子どもたちが、夢や希望の実現に向けて、たくましく生き抜く力を身に付けることができるよう、お力添えをお願いいたします。

結びに、本会のますますの充実・発展と本日御参会の皆様方の一層の御活躍を御祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

総会に臨んで

平成29年5月9日(火)福島県文化センターにおいて、第54回福島県中学校教育研究会総会が開催されました。

熱意ある県内各地の代表である会員の皆様が御出席され、本会の充実と発展のため、会の根幹を成す基本的な方針等について、共通理解を得ました。特に今年度は研究主題「確かな学力を身につけ、ふくしまの未来を創造する心豊かでたくましい生徒の育成」のまとめの3年次であり、会津大会における研究の深まりが期待できます。

さて、ご来賓の方々よりご挨拶をいただきましたが、どのご挨拶も中教研における職員の研修の意義や効果、同僚性、自主性について触れられていました。自主的な研鑽こそ教師としての力量につながり、それが子ども達の学習への興味・関心・学力の向上にストレートに伝わっていくものです。本県でも教職員の大量退職が予想される中、若手職員の力量アップは喫緊の課題です。中教研は自主的団体の側面はありますが、諸先輩方の今までの

福島県中学校教育研究会副会長 吉 成 主 宏

研鑽の蓄積があり、若手職員のために様々なノウハウを伝達する場のひとつとして、有効であると思います。午後には、支部長会及び専門部長会が開催され、各支部における研究の進展状況や様々な現状について、情報交換がなされました。

昨年度もありましたが、会員数の減少、今後の相双地区における研究会の運営、再任用の先生方の参加、2校兼務の際の参加形態等について課題として話し合われました。

特に本研究会編ワークブックの採用数減については、大きな課題です。県の教育の実態に基づき、県下各支部から選ばれた専門委員により作成されているワークブックの使用は本県の生徒のため、そして編集・刊行している先生方の研鑽の深まりにつながります。本研究会の維持運営への還元という面からも、ワークブックの使用を推進していただくようお願い申し上げます。

平成29年度本会予算

収 入 総 額 8,176,456 円
 支 出 総 額 8,176,456 円
 差 引 残 額 0 円

1. 収 入 の 部

項 目	本年度予算額	28年度予算額	比 較 増 減	付 記
会 費	7,360,000	7,590,000	△ 230,000	2,300 円× 3,200 人
研 究 委 託 金	100,000	100,000	0	県中学校長会より
研 究 助 成 金	200,000	200,000	0	公務員弘済会より
繰 越 金	516,356	147,568	368,788	
雑 収 入	100	300	△ 200	貯金利息
計	8,176,456	8,037,868	138,588	

2. 支 出 の 部

項 目	本年度予算額	28年度予算額	比 較 増 減	付 記
1 会 議 費	1,785,000	1,680,000	105,000	
(1) 総 会 費	900,000	850,000	50,000	総会代議員等旅費, 昼食代, 要項印刷, 会場費
(2) 委 員 会 費	80,000	80,000	0	委員・理事合同会旅費, 昼食代
(3) 理 事 会 費	25,000	20,000	5,000	理事会旅費, 昼食代
(4) 事 務 局 会 費	30,000	30,000	0	事務局会旅費
(5) 主 題 研 修 会 費	750,000	700,000	50,000	主題研修会旅費
2 事 務 費	92,000	92,000	0	
(1) 通 信 運 搬 費	2,000	2,000	0	送料, 切手代
(2) 消 耗 品 費	5,000	5,000	0	書類ケース
(3) 印 刷 費	40,000	40,000	0	運営要覧その2, 用紙代
(4) 諸 費	45,000	45,000	0	会計監査会旅費, H30年度保険料
3 事 業 費	3,460,000	3,480,000	△ 20,000	
(1) 研 究 大 会 費	1,540,000	1,540,000	0	支部補助 会津大会実行委員会補助, 大会要項・開催案内
(2) 研 究 調 査 費	605,000	605,000	0	専門部605,000 (55,000×11教科)
(3) 研 究 成 果 刊 行 費	715,000	715,000	0	専門部715,000 (65,000×11教科)
(4) 広 報 活 動 費	600,000	620,000	△ 20,000	「中学教育」印刷代(135号, 特集号, 136号)
4 支 部 活 動 費	2,660,000	2,740,000	△ 80,000	各支部活動費
5 予 備 費	179,456	45,868	133,588	
計	8,176,456	8,037,868	138,588	



主題研修会に参加して



国語部会

郡山市立富田中学校
齋 藤 司

今回の主題研修会では、研究主題の第3年次であることも踏まえ、副主題のとらえ方や授業構想について活発に協議が行われました。

研究協議では、事務局から「読むこと」の領域の指導の工夫を「手段」として、「生きて働くことばの力」を身につけさせたいという提案がありました。また、これまでの研究成果である「相互交流と振り返り」を学習活動に位置づけることを通して、生徒が形成した考えを深めさせることをめざす授業作りを追究することが確認されました。さらに、主題に係る詳しい解説や授業試案の説明があり、今年度の研究を進める上で大変勉強になりました。何より、生徒に何を考えさせ、どのように発問するかを熟考しながら、読み広がりのある表現に着目させ、考えをもたせていくことで、“表現”としてのことばにこだわる姿勢を養わせることを学びました。

今年度の主題研修会を通して、生徒に身に付けさせたい力は何かを意識することが大切であり、その力を身に付けさせるために、どのような手だてを講じていくかを精選しながら授業改善に努めていきたいと考えることができました。この研修会で学んだ内容を踏まえ、支部全体の研究推進にも努めていきたいと思えます。

社会部会

須賀川市立岩瀬中学校
鈴 木 正 美

研究主題「社会の変化に主体的に立ち向かう力を育成する社会科の指導はどうすればよいか」の下、研究3年次となる今年度の副主題は「表現する力を高める指導の工夫」ということで、研究のまとめに向けて、事務局より副主題のとらえ方や研究の方向性について話がありました。

各分野ごとの協議では、前半に各自が持ち寄った資料を基に、各支部の研究の進め方と実践例や授業の構想の説明を行いました。各支部とも授業を構築する際のポイントを2～3に絞り、様々な学習形態や手法を工夫しながら、副主題に迫るための手立てについて報告しました。後半の協議では、各支部から出された構築のポイントについて、具体的な取組や様々なアイデアなどを出しながら、情報を共有する機会となりました。

今回の主題研修会に参加させていただき、めまぐるしく変動する社会情勢において、研究主題にある主体的に立ち向かう力を育てることの重要性を再認識することができました。各支部の取組からもたくさんの情報を得ることができ、これからの研究のヒントになりました。ここで学んだことを支部の研究推進に生かし、実りある研究にしていきたいと思えます。

数学部会

玉川村立泉中学校
小 山 玲 子

今年度は「数学的活動の充実を図り、確かな学力を身につけさせるためにはどうすればよいか」という主題のもと研究の3年次になります。主題研修会では、改めて主題についての解釈や説明を受け、主題についての理解を深めることができました。また、今年度の副主題である「数や図形の性質などを見いだす活動の工夫」のとらえ方についても、詳しい解説や実施試案の説明がなされ、今年度の研究を進める上で大変勉強になりました。

研究協議では、事務局から2つの活動「既習の数学と結び付ける活動」と「既習の数学を発展させる活動」について説明がありました。生徒自身が「自分たちの手でつなげた」と意識できるように授業構想を工夫し、日々の授業で実践していくことが大切だと感じました。また、各支部から実践例や試案が示され、他支部の取組についての質疑応答や活発な意見交換がありました。

主題研修会に参加して、「数学的活動は数学が得意な子どものためにあるわけではなく、数学を学ぶすべての子どもたちにある」ということを常に頭に置き、授業実践していくことが大切であると実感しました。この研修会で学んだ内容を踏まえて授業改善に努め、支部全体の研究推進にも努めていきたいと考えています。

理科部会

田村市立移中学校
和 田 真 一

今年度は研究主題「科学的な体験や自然体験を通して、日常生活や社会で活用できる力を育む指導はどうすればよいか」の3年次にあたり、生徒の現状をもとにした副主題のとらえ方や実践についての説明、協議が行われました。

副主題については主に「どのような知識・技能をどのように習得させ、どんな活用の仕方をするのか」について説明が行われました。特に知識・技能では小学校で身につけている問題解決能力を土台に系統立てて計画することとその内容を精選してより具体化しておくことの大切さなどの話がありました。

また、言語活動の充実にもむけて、発表に使用するホワイトボードなどの教具の研究も行うことが確認されました。

協議において、生徒の現状として知識は調べれば分かる時代であり、いかに興味関心や生徒の気持ちを学習意欲につなげるか。そして研究実践で行った事を学力向上につなげる工夫の大切さなどの話がありました。

今回の研修会では各支部からの資料や協議で今まで気づけなかった視点などを得ることができました。支部全体で共有し今後の研究推進に活用していきたいと思えます。

音楽部会矢吹町立矢吹中学校
齋藤 由 佳

今年度は「幅広い音楽活動を通して、生徒一人一人の感性を磨き、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育て、豊かな情操を養う指導はどうあればよいか。」という研究主題の3年次のまとめの年になります。「創造的な音楽活動の指導と評価の工夫」を副主題として各支部で研究を推進することを確認しました。研究推進委員会の先生からは、「創造的な音楽活動」は、生徒が音や音楽に対するイメージを膨らませ、自分なりの意図をもって表現を工夫したり、味わって鑑賞したりする音楽活動のことであり、そのために教師がヒントとなるような発問や手だてを講じ、生徒が実感できるような活動にし、変容をしっかりと見て評価につなげていきたいというお話がありました。

各支部からは、昨年度から引き続きICT機器の活用や、今年度の副主題にせまるための適切な課題設定、ワークシートの工夫など、学ぶ側の視点に立った授業への見直しをするというお話があり、大変参考になりました。また、今年度の副主題にある「評価」について、他の先生方の実践されている評価の仕方も学ぶことができ、大変貴重な研修でした。今回学んだことを、今後の指導に生かしていきたいと思います。

美術部会会津若松市立北会津中学校
山 口 功

田んぼに水が入り、二倍になった空の中、車で会場に向かいました。残雪が残るあおく爽やかな磐梯山、湖面に5月の陽光をうつす猪苗代湖、車窓に流れる新緑の風景。部員の減少により毎年県の行事に参加し、負担と感ずることもありましたが、孤独な一人教科、到着する頃には、学校を離れて県下の先生方と研修できることが楽しみとなってきました。

期待に違わず、研修会は熱気溢れるものでした。県事務局からの話、各支部の主題のとらえ方や実践の発表、それに続く研究協議会。いかに先生方が美術教師として普段から真摯に研究に取り組み、熱意を持って実践を積み重ねているかが伝わりました。特に「美術科でしかできないこと」「美術科だからできること」を常に念頭に取り組んでいる姿勢。自分を振り返るよい機会となりました。

今年度は、研究主題の3年次であり、まとめの年となります。協議会で確認されたように「自分と対峙し、自分の思いや願いを持ち、目標に向かうプロセスを学ぶ」「他者や社会とのつながりを意識し、他者理解、新しい価値の獲得ができる」ような美術科の教科性を最大限に生かした授業を目指して研究をしていきたいと思います。

会津大会でお待ちしております。

保体部会北塩原村立裏磐梯中学校
齋藤 浩 幸

「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、積極的に体力の向上と健康の保持増進に取り組ませる指導はどうすればよいか」の研究主題のもと、本年度は3年次の取組で、研究副主題「健康の基礎的な知識を身に付けさせ、自らの健康を適切に管理、改善していく思考力や判断力を育成する指導の工夫～保健分野～」について研究推進することを確認しました。

平成29年度県中教研保健体育部長より「平成28年度の残された課題を明らかにし、その克服に向けて研究を推進し、特に『研究内容のア～ウ』の3本柱を明確にして各支部で研究を深めていただきたい」とのあいさつをいただきました。福島大学附属中の参考資料の説明もあり、今後の我々の研究推進の方向性を示していただきました。特に15支部中8支部(耶麻支部含む)が「研究内容のア」をもとに研究推進することを確認でき、有意義な県主題研修会でした。

耶麻支部では、今年度県大会開催支部であり、指導案検討会を中心に、役割分担や研究推進等について2～3回程度の研究推進会議をもち、県大会に備えることとしました。各支部会員のみなさまのお越しをお待ちしています。

技術部会下郷町立下郷中学校
馬 場 宏 昌

「社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむためにはどう指導すればよいか」という研究主題のもとに、3年次となる今年度は「生活に生かせる実践的な態度を育てる評価の工夫」を研究副主題として、各支部で研究を推進していくことになります。

主題研修会では、はじめに事務局より今年度の研究の重点内容となる「題材の評価計画の作成」や「実践的な態度を育てる学習活動の工夫」、「生徒の思考判断のプロセスを可視化できる評価方法の工夫」などについての説明がありました。その後研究領域ごとに分かれ、詳しい研究内容や研究の進め方、研究を推進するにあたっての問題点などの話し合いがなされました。

南会津支部では、会員が少ないため個人の負担が大きくなってしまうことが大きな課題となっています。しかし、主題研修会の分科会での話し合いの中で、各支部の実情を聞くことができ、各支部とも問題を抱えながら研究を推進していることを再認識しました。本支部としても少ない人数ではありますが、できるだけ協力し合い、支部としての研究を進めていきたいと思っています。また、今年度の県大会が会津地区なので、各支部の先生方と主題にせまる実践を共有したいと考えています。

家庭部会

会津坂下町立坂下中学校
星 美 香

主題研修会では、積極的な質疑応答が行われ、研究の進め方や主題・副主題の捉え方が再確認されました。グループ協議の中では、“思考・判断のプロセスを可視化できる評価方法”について重点的に話し合い、評価によって実践的な態度を育てるためにはどうすればよいかについての考えを深めることができました。学びの必要性に気付かせ、満足感・充実感を得られるようにするためには、ねらいが達成できるよう適切な学習活動を設定する必要があること、そして指導と評価は一体であることを改めて実感させられました。普段は同教科で話し合う機会が少ないため、県内の様々な先生方の見識に触れられるこの研修会は、大変良い勉強の場となっています。支部の代表として参加させていただく機会に恵まれ、感謝しています。

「社会の変化に主体的に対応し、生活に生かせる力をはぐくむためにはどう指導すればよいか」の主題も3年目となります。1年・2年次の研究をさらに深めると同時に、その成果を確かめる評価の年として、主題にある姿に生徒が近づいているか、題材や課題の設定、学習活動は適切であったかをきちんと評価し、次の指導に役立てられるようにしたいと思います。

英語部会

飯舘村立飯舘中学校
豊 田 邦 久

今年度は「自らの体験や考えなどを互いに発信できるコミュニケーション能力をはぐくむためには、どう指導すればよいか」という研究主題のもと、「自らの体験や考えなどを互いに発信できるコミュニケーション能力の高まりを共有できる授業と評価の工夫」を副主題に研究を進めていくことになります。主題研修会では、各支部の研究主題・副主題のとらえ方や研究内容、方法などについて協議が行われました。

副主題については、生徒が互いに自らの体験や考えを発信するために、帯活動等を活用して基礎基本事項をインプットさせ、即興的な言語活動の場を提供することが大切であるということが話題となりました。また、評価の工夫という点ではCAN-DOリストの活用を継続しながら、定期的にパフォーマンス評価を取り入れ、生徒にコミュニケーション能力の高まりを実感させることが大切であるとの確認がありました。

今回の主題研修会に参加させていただき、実践的なコミュニケーション能力を身に付けさせるためには即興的な言語活動を授業の中に位置づける必要があることを実感いたしました。この研修会で学んだ内容を踏まえ、支部全体の研究推進にも努めていきたいと思っています。

道徳部会

いわき市立赤井中学校
上遠野 理恵子

今年度は、「ふるさとを愛し、ふくしまの未来を拓く、たくましい心を育てるためにはどうすればよいか」という研究主題の3年次にあたり、「生徒のよさを引き出し、実践意欲を高める評価の工夫」を研究副主題として研究を進めていきます。

研修会では、部報や各支部から持ち寄った資料をもとに、昨年度の研究成果や研究主題・副主題のとらえ方、研究の進め方について協議が行われました。特に、平成31年度からの道徳の教科化に向けて、「評価の在り方と視点」、「評価の方法」、「評価の視点による見取りと表記の工夫」については、活発に質疑が行われました。副主題にある「評価」とは、1時間や個々の内容項目ごとに行われるものではなく、大きくくりなまとまりを踏まえたもので、生徒の成長を受け止める個人内評価であることが確認できました。午後からは、東京都府中第三中学校長森岡耕平先生の講演会が行われ、評価や指導方法、授業づくりの基本などについて、大変分かりやすく参考になるお話をたくさんお聞きすることができました。

この研修会で学んだことを十分に活用し、評価する授業の工夫とともに、生徒の心を育む授業づくりを目指し、これからも研修に取り組んでいきたいと思っています。

特別活動部会

福島市立渡利中学校
三 瓶 達 也

今年度は研究主題「学校の創意工夫を生かし、よりよい集団や社会を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるための特別活動の指導はどうすればよいか」の3年次にあたり、「連帯感を深め、集団や社会に貢献する態度を育てる学校行事及び生徒会活動の指導」という副主題のもと研究を進めています。

主題研修会では、事務局から異年齢集団での自分の役割を自覚させること、集団での活動の良さや所属感を感じ集団へ貢献しようとする態度を育てていくことなどの方針が示されました。そして、生徒の自主的、実践的な態度の育成を目指す研究を推進していくことが大切であることを改めて確認しました。

午後の協議会では、各校の実践と課題について共有し、本年度の研究の方向性について話し合いました。多様な視点から副主題を見つめたり、他校の実践を聞いたりすることで、本年度取り組むべき実践を具体的に考えることができ、研究に対する意欲がより一層高まりました。

本研修会を受け、生徒の自主的、実践的な態度を育てるのは教師の適切な働きかけであることを改めて認識し、そのような態度を育てる特別活動のあり方について研究を進め、実践にあたっていきたいと思っています。

平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会

会津大会をひかえて



平成29年度福島県中学校教育研究協議会会津大会が10月11日に開催されます。会津地区4支部のうち、北会津支部では音楽、美術、技術・家庭、道徳、耶麻支部では数学、保体、特活、両沼支部では国語、社会、南会津支部では理科、英語の授業公開を実施します。現在、

実行委員会と各開催支部の専門部長を中心に運営や授業研究会について話し合いを行い、県大会の準備を進めています。今回の県大会においても、当該市町村教育委員会のご配慮をいただき、研究協議会当日を生徒休業日といたしました。

さて、県中教研創設にあたっての結成趣意書には、「研究の場は輝かしい大会場そのものにあるのではなく、塵によごれている教室でもへき地に傾く校舎であったとしても、そこに中学校がある限り教育研究の出発点があり、終着点がある。県内の中学校ひとつひとつが県中教研活動のターミナルである。」と記されています。

会津地区では、4支部とも比較的規模の小さい学校が多く、会員数も減少傾向にあります。専門部によっては、会員数が一桁の支部も少なくありません。

こうした中で、研究協議会が本地区で開催されること

会津大会実行委員長 一ノ瀬 直 市
(会津若松市立北会津中学校長)

は、会員一人一人の大きな研修の場であり、研鑽に励むことに繋がります。

今回、会津地区の現状から、県本部並びに各専門部のご理解をいただき、公開授業の数や分科会の数の見直しをさせていただきました。

子どもたちが本来持つ、自ら伸びようとする力を教師が意識し、互いの信頼関係を育みつつ、子どもの意欲的な取組を支援する授業の実践が重要であり、それに向けての研修が本研究会の大きな目的でもあります。

本年度、研究主題・副主題の3年次のまとめの年であり、これまでの研修の成果と課題をふまえて、研究実践を行っていただきたいと思います。

そして、「ふるさとに思いをはせ、復興の中心となって活躍できる人材に生徒を育てる」願いを込めた、30年度以降の基本主題「主体的・対話的で深い学びを通して生きる力を身に付け、ふくしまの未来を切り拓く生徒の育成」に繋がるものになってほしいと思っております。

最後に、日頃より県中教研活動にご支援・ご指導をいただいております県教育委員会、開催地区教育委員会、県中学校長会に感謝申し上げますとともに、今後とも一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

福島県中学校教育研究協議会会津大会の開催

1 目 的

本県中学校教育研究会の設定した研究主題について、各中学校及び各支部の研究成果を持ちより、全県的な規模において研究協議し、会員の資質の向上を図るとともに、本県中学校教育の充実発展に資する。

2 主 催

福島県中学校教育研究会

3 共 催

福島県教育委員会

4 後 援

福島県中学校長会

福島県市町村教育委員会連絡協議会

開催地区内市町村教育委員会

(会津若松市・磐梯町・猪苗代町・喜多方市・北塩原村・西会津町・会津坂下町・湯川村・柳津町・会津美里町・三島町・金山町・昭和村・南会津町・下郷町・檜枝岐村・只見町・大熊町)

5 協 賛

公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部

6 期 日

平成29年10月11日(水)

7 会 場

国 語 科	会津美里町立高田中学校
社 会 科	会津坂下町立坂下中学校
数 学 科	喜多方市立第三中学校
理 科	下郷町立下郷中学校
音 楽 科	会津若松市立北会津中学校
美 術 科	会津若松市立第二中学校
保 健 体 育 科	喜多方市立塩川中学校
技術・家庭科	会津若松市立第四中学校(技術) 会津若松市立第一中学校(家庭)
英 語 科	南会津町立田島中学校 南会津町立荒海中学校
道 徳	会津若松市立第三中学校
特 別 活 動	喜多方市立第一中学校

8 参加者

各支部代表会員、各支部専門部長及び会津地区会員

9 日 程

8:30	9:00	9:20	9:30	10:20	10:35	12:00	13:00	15:30
受付	開会式	移動	授業公開	移動	研究協議	昼食	研究協議・閉会式	

10 運 営

- (1) 本年度は、研究主題3年次である。
 (2) 各中学校において、各研究主題を自校の現職教育に取り入れ、具体的な研究実践を推進する。

また、各支部において、各学校の教育実践の成果を支部研究協議会で共有できるよう計画する。

- (3) 各専門部会の授業数及び分科会数は次のとおりとする。

国 語 (3・3) 社 会 (3・3)
 数 学 (3・3) 理 科 (2・2)
 音 楽 (1・2) 美 術 (1・1)
 保 体 (2・2) 技・家 (1・1・2・2)
 英 語 (3・3) 道 徳 (3・3)
 特 活 (1・1)

- (4) 授業実施にあたっては、支部専門部あるいは県専門部との十分な連携のもと適切な授業研究に努める。また、支部専門部は、支部内における研究推進計画に基づき、授業実施に際しては組織的に支援する。

- (5) 開催地区においては、実行委員会を組織し、研究協議会の諸準備並びに運営に当たる。

- (6) 各専門部の責任者は、県専門部長と連携を密にし、適切な運営計画により事前の準備並びに当日の運営に当たる。特に専門部研究協議会は、研究主題及び副主題に沿って十分な協議ができるようにし、内容の充実を図るように努める。

- (7) 各支部代表参加者は、事前に必要な資料を提出する。提出資料の部数、期限等については、第1次案内及び第2次案内に明記する。

- (8) 開催地区（会津地区）においては、当日を休業日とし、地区内会員が各専門部会に参加できるように配慮する。

11 研究のまとめ

研究実践の成果を「研究集録」としてまとめ、各中学校に配付する。

平成28年度中学校教職員研究作品の審査結果

福島県中学校教育研究会研究推進部長 大 越 一 也

平成28年度の各支部推薦教職員研究作品29点について、去る5月31日の第1次審査において、優秀作品5点を選出し、6月13日に第2次審査を行い、優秀作品5点の中から最優秀作品として2点を選出いたしました。

審査の内容及びその結果を報告いたします。なお研究内容、審査講評等は特集号において公表いたします。

1 研究作品の領域別出品数

社会1 英語1 道徳1 学習指導26 合計29点

2 審査の観点

- (1) 研究の構想
 ・研究の目的 ・研究計画・方法 ・研究の理論
 (2) 研究の内容
 ・実践の適切性 ・内容の一般化 ・資料の累積

- (3) 研究のまとめ

- ・結論の妥当性 ・研究成果の活用性
 ・表現や記述、まとめ方の工夫

- (4) 研究の総合性

- ・研究の価値

3 審査員

- (1) 第1次審査

会長・事務局長・県専門部長（理事）・事務局員

- (2) 第2次審査

福島県教育庁義務教育課 主任指導主事

西 牧 泰 彦 先生

福島県教育センター 主任指導主事

石 綿 厚 先生

4 審査結果

- (1) 最優秀賞

No.	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 沼崎 奈美	福 島 一 中	英 語 科	互いに伝え合う喜びを共有し合い、表現力を高める授業の工夫
2	郡 山	代表 飯村 新市	郡 山 二 中	学 習 指 導	深まりのある「学び」を目指して ～伝え合い、ともに学ぶことによる思考力の育成（3年次）～

- (2) 優 秀 賞

No.	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	郡 山	矢吹 真	日 和 田 中	社 会 科	社会認識を深め、思考力・判断力・表現力を伸ばし、公民的資質の基礎を育てる社会科の学習指導はどのようにあればよいか
2	南会津	代表 菊池 博基	舘 岩 中	学 習 指 導	確かな学力の向上を図る生徒の育成 ～思考力・判断力・表現力を高めるアクティブ・ラーニングの工夫～
3	相 馬	代表 山野辺藤夫	中 村 一 中	道 徳 教 育	自他のよさを認め、お互いを大切にして、より良く生きようとする生徒の育成 ～魅力ある道徳の時間の授業づくりを通して～

●—— 平成28年度 中学校教職員研究作品優良作品一覧 ——●

No	支部名	氏 名	学 校 名	教科・領域	研 究 テ ー マ
1	福 島	代表 伊 藤 隆 幸	福 島 一 中	学 習 指 導	能動的な学びへの挑戦！魅力的な授業への改善と工夫 ～ともに学ぶ学習活動の工夫～
2	福 島	代表 香 内 一 宏	福 島 三 中	学 習 指 導	自分の考えを持ち、深め、進んで表現できる生徒の育成 ～「つなぐ」を意識した学び合い活動を通して～
3	福 島	英語科代表 沼 崎 奈 美	福 島 一 中	英 語 科	互いに伝え合う喜びを共有し合い、表現力を高める授業の工夫
4	福 島	代表 島 貫 条 司	川 俣 中	学 習 指 導	気づき、考え、表現する生徒の育成 ～教師の適切な指導による話し合い活動の充実を通して～
5	伊 達	代表 佐 藤 敏 意	桃 陵 中	学 習 指 導	わかる・できる授業の実践を通して、主体的に学ぶ生徒の育成 ～「わかる・できる課題設定の工夫」～
6	伊 達	代表 神 野 興	釧 芳 中	学 習 指 導	自分の考えを持ち、表現できる生徒の育成 ～生徒の意欲を引き出す「〇〇したくなる授業」実践を通して～
7	安 達	代表 鈴 木 一 高	二 本 松 一 中	学 習 指 導	自己肯定感を高める指導の工夫 ～学びの質を高める指導方法の工夫を通して～
8	安 達	代表 渡 辺 康 弘	大 玉 中	学 習 指 導	「思考力をはぐくむ授業の創造」 ～思考スキルを用いた指導過程の工夫～
9	郡 山	代表 飯 村 新 市	郡 山 二 中	学 習 指 導	深まりのある「学び」を目指して ～伝え合い、ともに学ぶことによる思考力の育成（3年次）～
10	郡 山	代表 鈴 木 重 行	御 館 中	学 習 指 導	主体的に学びに向かう生徒の育成 ～生徒が充実感・達成感を味わえる学習活動～
11	郡 山	代表 小 熊 博 治	緑 ケ 丘 中	学 習 指 導	豊かなこころを育む学校・学年・学級経営のあり方 ～Q-Uを活用した学習集団づくりを通して～
12	郡 山	矢 吹 真	日 和 田 中	社 会 科	社会認識を深め、思考力・判断力・表現力を伸ばし、公民的資質の基礎を育てる社会 科の学習指導はどのようにあればよいか
13	岩 瀬	代表 森 合 義 衛	須 賀 川 一 中	学 習 指 導	支え合う人間関係を目指した互いに高め合う集団・生徒の育成 ～LSPを基盤にしたスキル教育の実践を通して（3年次）～
14	岩 瀬	代表 佐 浦 雅 明	天 栄 中	学 習 指 導	確かな学力を育む授業の創造 ～単元構想の工夫に基づいた主体的な学習の導入～
15	石 川	代表 岡 崎 寛 人	須 釜 中	学 習 指 導	自ら学び考えるための確かな学力を身につけた生徒の育成（2年次） ～個に応じた確かな学力を身につけさせるための学習指導の工夫～
16	石 川	代表 有 賀 真 道	ひらた清風中	学 習 指 導	生徒同士が学び合い、高め合う授業づくり ～磨き合い、高め合う「学び合い」活動のあり方～
17	田 村	代表 佐 藤 祐 也	三 春 中	学 習 指 導	学年型教科教室の学習環境を生かし、学び合い・学び続ける生徒の育成～活動的・協 同的・反省的学びを採り入れた授業の実践を通して～
18	田 村	代表 吉 田 美智生	移 中	学 習 指 導	課題と向き合い、主体的に学習する生徒の育成 ～主体的・協働的な学びを促す学習指導の工夫～
19	東 西 しらかわ	代表 大 越 憲 峰	白河中央中	学 習 指 導	確かな学力を身につける授業の創造Ⅱ～活用力を伸ばす授業の質的改善～
20	東 西 しらかわ	代表 箭 内 三紀夫	矢 吹 中	学 習 指 導	確かな学力の向上を目指す指導の工夫・改善
21	北 会 津	代表 矢 澤 良 伸	若 松 二 中	学 習 指 導	主体的に学ぶ生徒の育成～言語活動の充実を図る指導を通して（3年次）～
22	耶 麻	代表 星 信 男	高 郷 中	学 習 指 導	「活用力」の育成を図る指導の工夫 ～親和的な学習集団が支える言語活動を生かした主体的な学びを通して～
23	両 沼	代表 板 橋 健 一	坂 下 中	学 習 指 導	自ら学習意欲を持ち、互いに学び合い、認め合える生徒の育成
24	南 会 津	代表 菊 池 博 基	館 岩 中	学 習 指 導	確かな学力の向上を図る生徒の育成 ～思考力・判断力・表現力を高めるアクティブ・ラーニングの工夫～
25	南 会 津	代表 渡 部 朋 史	荒 海 中	学 習 指 導	主体的に自ら考え、判断し、課題を解決する力を育む指導はどうあればよいか ～学ぶ楽しさを実感できる活用の授業2年次～
26	相 馬	代表 山野辺 藤 夫	中 村 一 中	道 徳 教 育	自他のよさを認め、お互いを大切にして、より良く生きようとする生徒の育成 ～魅力ある道徳の時間の授業づくりを通して～
27	相 馬	代表 和 田 節 子	飯 館 中	学 習 指 導	飯館型授業スタイルを通して生徒の活用力を向上させる学習指導のあり方
28	双 葉	代表 阿部 洋己 村 上 順一	富 岡 一 中 富 岡 二 中	学 習 指 導	自ら課題を見つけ、進んで学ぶことができる生徒の育成 ～環境創造センター交流棟での放射線教育の学習や、「ふるさと創造学」での取組を通して～
29	い わ き	代表 目 黒 康 二	小 白 井 中	学 習 指 導	自ら考え、向上心を高める児童・生徒の育成 ～小白井小学校との小中連携を意識した学習指導の工夫と学習習慣の確立～

平成29年度 中学校教育研究会役員一覧

役 職 名		氏 名	学 校 名	郵便番号	学 校 所 在 地	電話番号
会 長		高 橋 賢 司	渡 利 中 学 校	960－8141	福島市渡利字平内町106	024－523－5500
副 会 長		杉 山 忠 彦	霊 山 中 学 校	960－0801	伊達市霊山町掛田字下川原30	024－586－1327
		有 賀 真 道	ひらた清風中学校	963－8202	石川郡平田村大字上蓬田字切山 1	0247－55－2005
		一ノ瀬 直 市	北会津中学校	965－0131	会津若松市北会津町中荒井2107－ 1	0242－58－3322
		淀 正 明	浪江東中学校	964－0984	二本松市北トロミ 573	0243－62－0209
		吉 成 主 宏	玉 川 中 学 校	971－8127	いわき市小名浜玉川町西24	0246－58－6711
監 事		佐 藤 毅	信 夫 中 学 校	960－1101	福島市大森字南内町31－ 1	024－546－7693
		吉 田 美智生	滝 根 中 学 校	963－3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247－78－2024
		渡 邊 健 順	二本松第二中学校	964－0955	二本松市沖 3－301	0243－22－1006
委 員	福 島	高 橋 賢 司	渡 利 中 学 校	960－8141	福島市渡利字平内町106	024－523－5500
	伊 達	杉 山 忠 彦	霊 山 中 学 校	960－0801	伊達市霊山町掛田字下川原30	024－586－1327
	安 達	渡 邊 健 順	二本松第二中学校	964－0955	二本松市沖 3－301	0243－22－1006
	郡 山	鈴 木 康 雄	安 積 中 学 校	963－0106	郡山市成山町 1	024－945－1489
	岩 瀬	佐 浦 雅 明	天 栄 中 学 校	962－0511	岩瀬郡天栄村大字白子字西原 5	0248－83－2222
	石 川	有 賀 真 道	ひらた清風中学校	963－8202	石川郡平田村大字上蓬田字切山 1	0247－55－2005
	田 村	吉 田 美智生	滝 根 中 学 校	963－3602	田村市滝根町神俣字中広土192	0247－78－2024
	東西いわき	高 橋 顕	白河第二中学校	961－0985	白河市和尚壇 2－ 1	0248－23－3248
	北会津	一ノ瀬 直 市	北会津中学校	965－0131	会津若松市北会津町中荒井2107－ 1	0242－58－3322
	耶 麻	澤 崎 俊 哉	喜多方第三中学校	966－0045	喜多方市字南原3475	0241－22－5121
	両 沼	樋 口 亨	本 郷 中 学 校	969－6041	大沼郡会津美里町字川原町1933	0242－56－3005
	南会津	菊 池 博 基	館 岩 中 学 校	967－0307	南会津郡南会津町水石19	0241－78－2004
	相 馬	梅 田 善 幸	原町第一中学校	975－0007	南相馬市原町区南町三丁目23	0244－22－4144
	双 葉	淀 正 明	浪江東中学校	964－0984	二本松市北トロミ 573	0243－62－0209
	いわき	吉 成 主 宏	玉 川 中 学 校	971－8127	いわき市小名浜玉川町西24	0246－58－6711
理 事	国 語	西 牧 伸 弘	岳 陽 中 学 校	960－8067	福島市須川町 1－33	024－534－6171
	社 会	神 野 興	信 陵 中 学 校	960－0241	福島市笹谷字島原 2	024－557－6018
	数 学	石 川 幸 男	西 信 中 学 校	960－2155	福島市上名倉字道上 6	024－593－1049
	理 科	金 子 洋 一	松 陵 中 学 校	960－1241	福島市松川町字上桜内 3－ 4	024－567－2040
	音 楽	須 田 順 子	福島第二中学校	960－8133	福島市桜木町 5－20	024－534－2166
	美 術	浅 野 太 平	福島第四中学校	960－8013	福島市南平 5－ 8	024－535－4240
	保 体	中 村 徹	大 鳥 中 学 校	960－0201	福島市飯坂町字館11	024－542－4284
	技・家	高 橋 政 広	川 俣 中 学 校	960－1464	伊達郡川俣町字宮ノ脇14	024－566－4111
	英 語	菅 野 浩 智	福大附属中学校	960－8107	福島市浜田町12－26	024－534－6442
	道 徳	工 藤 裕 也	飯 野 中 学 校	960－1301	福島市飯野町字西志保井 1－ 1	024－562－2325
	特 活	二 平 光 明	立子山中学校	960－1321	福島市立子山字大稲場20	024－597－2311
	事務局	遠 藤 哲	信 夫 中 学 校	960－1101	福島市大森字南内町31－ 1	024－546－7693
総務部長	島 貫 条 司	野 田 中 学 校	960－8057	福島市笹木野字市街道28－ 1	024－531－0031	
同 副部長	二 平 光 明	立子山中学校	960－1321	福島市立子山字大稲場20	024－597－2311	
研究推進部長	大 越 一 也	北 信 中 学 校	960－0102	福島市鎌田字御仮家20	024－553－5049	
同 副部長	菅 野 浩 智	福大附属中学校	960－8107	福島市浜田町12－26	024－534－6442	
刊行部長	工 藤 裕 也	飯 野 中 学 校	960－1301	福島市飯野町字西志保井 1－ 1	024－562－2325	
同 副部長	古 川 豊	西 根 中 学 校	960－0211	福島市飯坂町湯野字大平 2	024－542－4641	
一般会計部長	加 藤 芳 宏	吾 妻 中 学 校	960－2261	福島市町庭坂字原田 8	024－591－1109	
同 副部長	佐 藤 友 紀	渡 利 中 学 校	960－8141	福島市渡利字平内町106	024－523－5500	
研究調査会計部長	石 川 幸 男	西 信 中 学 校	960－2155	福島市上名倉字道上 6	024－593－1049	
同 副部長	後 藤 洋 一	清 水 中 学 校	960－8254	福島市南沢又字清水端23	024－559－0085	